

政務活動費 活動実績報告書

件名	宮崎市議会 DX「みやだん事業」について
使途	1 調査研究費 2 研修費 3 要請・陳情活動費
金額	44,592円（交通費・宿泊費等）
期日	令和8年2月4日（水）～5日
場所	宮崎市議会：宮崎市橘通西1-1-1（電話：(0985) 21-1853 FAX：(0985) 31-0979）
目的	地域の課題解決と政策実現のため、宮崎市議会が導入している議会及び議員と市民をつなぐプラットフォーム「みやだん事業」の知見を広め、八女市議会の活動に活かすため
参加者	田中栄一（川口誠二 花下主茂）
概要	<p><u>宮崎市概要（1月1日現在）</u></p> <p>平成10年4月1日には政令指定都市に準ずる権限をもつ中核市に移行し、平成18年1月1日に近隣の佐土原、田野、高岡の3町を、平成22年3月23日に清武町を編入合併し、新宮崎市として誕生。</p> <p>平成8年1月1日現在：面積：644.61km² 人口：390,917人 世帯数：189,231世帯</p> <p><u>市議会概要</u></p> <p>定数：40人 会派：13会派</p> <p>委員会：総務財政、文教民生、建設企業、市民経済の4常任委員会</p> <p>事務局：正職員16名（局長、総務課（5名）議事調査課（10名））、会計年度任用職員：4名 合計20人で構成</p> <p><u>宮崎市議会 DX「みやだん」でできること</u></p> <p>「まちだん＝まちの談話室」=>「みやだん＝宮崎市の談話室」は、地域の課題に対する住民の共感をクラウド型で可視化し、政策提案へとつなげる新しい仕組み。市民の声が、</p>

まちを変える力になる。

- ・ 議員情報や活動内容の確認
- ・ 議員への相談 <まちの課題をもっと身近に、もっと簡単に。>
- ・ 住民の声をワンタップで可視化
- ・ 議員・議会が直接アクション=>みんなの共感が政策につながる

こんな方におすすめ

- ・ 地域の課題に関心があるが、どう意見を伝えたらいいかわからない
- ・ もっと住民の声が議会に届く仕組みが欲しい
- ・ 簡単なアクションで、まちづくりに参加したい
- ・ 議会と語る会に参加できなかった市民が視聴できる
- ・ 議会だよりの閲覧をしたい

若い世代はスマホ世代であり全てスマホから情報収集している。議会や議員を身近に感じられるようにとの考えから、議会のあらゆる情報を簡単に見やすく（議会だよりの縦文字から横文字への変更など）するなど進化している。 (詳細は別紙)

所 管

八女市議会では、ホームページ、議会だよりによって広報活動を行っているが、市民への特に若い世代への広報力が足りないと感じている。また広聴分野では、意見交換会や請願・陳情のみで双方向の意思疎通も非常に弱いと感じている。

宮崎市議会においては、「見て」「知って」「興味を持ってもらう」システムの構築を進め、世代間ギャップや議員と市民のギャップ解消のために双方向システム構築に取り組みされたことは素晴らしいと感じた。特に当時の議長が提案し会派を説得して回ったとのことで、議長のリーダーシップと熱意に感嘆した。導入に向けた議論を広報委員会でも重ねてもらいたい。

宮崎市議会応接者

嶋田喜代子（副議長、広報公聴委員長） 松木正幸（議事調査課長）

太田俊一郎（議事調査課長補佐兼政策調査室長） 園田（事務局書記）

視察研修次第

- ①宮崎市議会あいさつ（嶋田副議長）
- ②八女市議会あいさつ（川口会派代表）
- ③宮崎市議会 DX「みやだん事業」の説明（太田俊一郎議事調査課長補佐兼政策調査室長）
- ④質疑応答（意見交換）
- ⑤研修お礼（田中栄一）

宮崎市議会 DX「みやだん事業」の説明

1 導入に至る背景

地方議会の活動は、市民からは見えない、分からないという雲の上で遠い存在であるという認識がある。故に政治家はあまり良いイメージを持たれていないという土壤があるなかで、コロナ禍においては住民と対面で意見交換できる機会が減っている。こういった中で投票率も年々下がっており、「見て」「知って」「興味を持ってもらう」システムの構築が必要であった。

2 議員の課題感

議員は議案審査、政策立案、条例提案、一般質問、行政の監視、請願の取次、所管事務調査など多くの活動をしているが、「活動が伝わらない」ために悪いイメージが広がる。若い世代にも関心を持ってほしい。多様な声を聴きたいなどの課題があり、新たな時代に対応した広報広聴機能の充実が求められていた。=>「デジタルで情報を集める世代への広報」=>広報紙（紙媒体）は従来どおり必要だが、デジタル世代に適した新しい広報の在り方も必要ではないか。

3 まずは活動の見える化が大事

まずは活動の見える化が大事である。=>デジタル技術で開かれた議会を実現する仕組みづくり=

>双方向のコミュニケーション=>全ての情報をまとめ広報・広聴を強化する。

1) Gcom と 飢肥社中が共同企画した「まちだん」の実証実験に着手 (令和3年12月3日協定書調印)

Gcom (Gcom ホールディングス株式会社) とは:福岡市博多区東平尾に本社を置く自治体向けシステム会社で、開発の歴史は1971年まで遡る。創業のきっかけは、IT業界に参入することではなく、この自治体業務を「どうにか事務改善できないか」という、純粋な課題解決への想いから、特定の分野・業務(自治体IT)に特化し、その知識を集約した自社製品を継続的に育てている会社である。

飢肥社中(株式会社 飢肥社中)とは:日南市飢肥に社屋を置き、事業内容は①人材育成 ②政策支援・シンクタンク ③地方創生支援・コンサルティングである。代表は崎田恭平氏(元日南市長)で、「創客創人」をコンセプトにまちづくりを展開している。

2) 実証実験の目的:あらゆる世代に興味を持ってもらえる、開かれた議会を目指すため、IT技術(DX)

を使って、市民と議会の距離を縮めること。

3) 実証実験マスタースケジュール

・令和3年12月15日 協定書調印(宮崎市議会、Gcom、飢肥社中)記者発表

・ 〃 12月 実証実験開始

・令和4年1月 実証内容の詳細決定

・ 〃 8月 市民公開開始

4) 身近に感じてもらうために

・議員プロフィールのイラスト化を実施(平均閲覧数の増加:約90回が約397回に)

・議会報告会のLIVE配信実施(現地参加130人、動画視聴1,050ページビューと約8倍に)

・相談を受け、新しくつながる(ライン等による議員への個人相談も可)

・市議会DXアンバサダーの募集=市民と議会の懸け橋になり、一緒に盛り上げていただく

5) 実証実験の結果(成果)

・市民参加、メディアへの露出、他議会からの注目

4 現在の取り組み

1) 一般質問のイラスト化

- ・片手操作 OK。縦スクロールが可
- ・イラスト化でより見やすくなった
- ・デジタルの為、文字数制限がない

2) 議会だより（紙媒体）と「みやだん」との連携

- ・「みやだん」上に限定記事を公開している
- ・紙媒体から「みやだん」への誘導を行う

3) 常任委員会の見える化

- ・「みやだんラジオ」の開設（議長と委員長との対話形式）
- ・動画編集の負担を軽減
- ・「みやだん議長（AIによるバーチャル画像）」による議会案内
- ・各定例会の様子を5分で報告（より分かりやすく発信）する

4) アンバサダーの更なる活用

- ・SNS と連携（ハッシュタグ）することでアンバサダーの活動を「まちだん」で発信
- ・議会だよりで特集記事を作成

5) 子ども議会の開催

- ・市内中学生を対象に子ども議会を開催し、「みやだん」で特集ページを作成
- ・子どもたちに「市議会」と「議員」について知ってもらうことが重要
- ・主権者教育をメインテーマに議長と教育長の対談を開催し配信

6) 議会報告会の DX 化

- ・各常任委員会の活動報告を事前配信→公聴会の事前質問受付⇒アンバサダーの参画（ライブ中継リポーター）⇒現地開催（80分）⇒ライブ・アーカイブ配信

- ・これまでリーチできなかった方へ届けることができ、声を拾える=>議会報告会の充実

7) 議員への相談事例の作成

- ・相談機能を利用したいが相談しづらいという意見が多数=>相談事例を作成

8) 一般質問の見える化

- ・定例会や議員ごとにトレンドがわかるヒートマップを作製
- ・終了後に質問者の30秒感想を配信

5 得られた知見

- ・デジタルと現実活動の双方が重要=デジタルでの情報発信・交流を起点にリアルな市民との距離を縮める
- ・デジタルとリアルを相互につなぐアプローチが「開かれた議会」の実現に必要
- ・柔軟に対応することが必要
- ・若者の関心と参加の確認ができた=>若い世代のニーズに応えることが求められている

6 宮崎市議会が目指す姿

- ・デジタルとリアルを融合し、誰でも参加できる議会を創る

質疑（意見交換）

1 事業実施に当たっての初期費用、ランニングコストは

- ・3者で行政DX「みやだん」をつくるということから初期費用は発生していない
- ・公式事業となってからは、動画作成等に220千円/月（税込み）が発生している。

2 導入前後で、事務局の業務量・質はどのように変化したか

- ・専任職1名（専門職ではない）でホームページ、SNS、「みやだん」の編集作業（写真撮影、業者との調整等）に従事している。
- ・職員の負担は大きいと思う。

- ・異動後の対応について課題がある。

3 市民参加者数は

項目	令和4年度 R4.8～R5.3	令和5年度 R5.11～R6.3	令和6年度	令和7年度
登録ユーザー数	258人	430人	588人	624人
訪問ユーザー数	6,379人	6,523人	※23,771人	18,285人
ページビュー数	約40,000回	40,698回	68,306回	78,917回
相談数	30件	138件	72件	35件

※スーパークレイジー君騒ぎ

4 効果の評価指標について

- ・「みやだん」の目に見える効果を測定するのは特殊要因もあり難しいが、議会への関心は高まっている。

